

日越デジタルテクノロジーフォーラム2026 実施報告

Vietnam-Japan Digital Forum 2026 | AI・ディープテックによる未来共創

開催概要

日 時: 2026年10月2日(金)13:00~17:00

会 場: ベルサール新宿セントラルパーク

構 成: カンファレンス／展示／Business Matching

イベントの位置づけ

旧「ベトナムIT DAY」を発展的にリニューアル。AI、Deep Tech、日越Co-creation、日本の「デジタルの崖」への対応等をテーマに実施。

重要ポイント

ベトナム科学技術省(MOST)大臣 ヴー・ハイ・クアン氏、フアム・クアン・ヒエウ駐日ベトナム大使が出席。JISA福永会長が開会式で挨拶。



会場全景: 日越双方の政府関係者・企業関係者が参加

実施結果の概略

政府関係者・業界団体・日越企業が一堂に会し、政策、技術、企業実装、ビジネスマッチングを一体で扱う場となった。展示ブースではベトナム企業のAI・Deep Tech関連ソリューションを紹介し、1対1の商談機会を提供した。

開会式の様子

JISA福永会長が開会挨拶、科学技術大臣・駐日ベトナム大使が出席

JISA福永会長は、本フォーラムの開会式で挨拶を行った。VINASAや政府・関係機関の代表も登壇し、日越の政府関係者、業界団体、企業が一堂に会する中、AI・ディープテックを通じた両国の協力の方向性を共有した。

ベトナム科学技術大臣ヴー・ハイ・クアン氏が出席し、日越協力を研究開発や付加価値の高い技術製品の共創へ広げる可能性を示した。AI、ロボティクス、ドローン、半導体、デジタルインフラを協力分野として取り上げ、共同開発した製品の世界市場・サプライチェーンへの展開に言及した。

駐日ベトナム大使ファム・クアン・ヒエウ氏も出席し、政府・大使館と民間が日越企業の連携を考える機会となった。なお、開会前には、福永会長が大臣・大使と控室で意見交換を行った。



JISA福永会長による開会挨拶



ヴー・ハイ・クアン科学技術大臣



ファム・クアン・ヒエウ駐日ベトナム大使



ヴー・ハイ・クアン科学技術大臣



控室での意見交換の様子

プログラム全体の構成

政策・技術動向、企業実装、展示・商談を一体で実施

開会・基調講演・政策方針

開会式に続き、両国政府代表による基調講演・政策方針表明を実施。
日本・ベトナム双方のICT/DX・AI協力の方向性を共有した。

Session 1 | 未来のテクノロジートレンドと共創

AI、Robotics、UAVなどの戦略技術を中心に、日越間のR&D協力、
新技術の実証・導入、Co-creationの可能性を議論。

Session 2 | AI & Deep Techによる「デジタルの崖」対応

レガシーシステムの刷新、AIエージェント活用、業務プロセスの高度化
等をテーマに、企業実装の課題と対応策を共有した。

展示・Business Matching

カンファレンスと並行して、ベトナム企業の展示、VIPテックツアー、1
対1のBusiness Matchingを実施。



VINASA参加のVJC(日越協力委員会)委員長のレ・クアン・ルオン氏



Session 1 | 未来のテクノロジートレンドと日越Co-creation

政策・デジタル産業・AI実装をつなぐ共創パートナーシップ

日本側:ICT・DX協力とAI共創

総務省の講演では、日越ICT・DX協力と「日ASEAN AI共創イニシアティブ」を紹介した。社会課題を解決するAIソリューションの共創、制度・ガバナンスの整備、人材育成・能力構築、基盤整備を協力の柱として説明。地域の言語・文化に対応したAIモデルの研究開発やデータ連携、AIの開発・運用人材の育成、サイバーセキュリティ協力を取り上げた。

ベトナム側:政策と共同開発の方向性

科学技術省のチュオン・フウ・チュン氏は、デジタル技術産業、半導体、AIの政策枠組みを説明した。投資優遇に加え、R&D・人材育成・試験環境の整備や海外市場開拓への支援を紹介。日越協力では、共同研究拠点の設置、半導体の設計・製造・検証、AI基盤と応用、企業・大学・研究機関による共同人材育成を挙げ、技術移転と事業展開の可能性を示した。

企業講演:実装力を生かした共創

FPTのグエン・フウ・ロン氏は、日本の現場知見・品質・安全への強みと、ベトナムのデジタル人材・実装力の補完関係を提示した。AI活用を事業成果につなげるには、既存業務との統合、データ整備、ガバナンス、人材への対応が必要と説明。Software AI、Agentic AI、Physical AIの動向を踏まえ、課題の発見から開発・実証、製品化・共同知財、海外展開までを両国で担う考え方を示した。

パネル:AI・ロボティクス・UAV

レ・クアン・ルオン氏(VJC委員長)がモデレーターを務め、AI、ロボティクス、UAVなどの戦略技術分野で、日越それぞれの強みをどう共創につなげるかを議論した。研究開発と実証を共同で進める可能性を、両国の登壇者が多様な視点から検討した。

Session 2 | AI & Deep Techによる日本の「デジタルの崖」への対応

レガシー刷新、技術統合、生成AI・AIエージェント活用

レガシー刷新とグローバル開発

Konica Minolta FPT Solution Labs Vietnamの鍋島氏は、複合機ソフトウェア開発の拡大と技術領域の変化を背景に、FPTとの協業の歩みを紹介した。国内人材の確保、外部依存による技術資産の見えにくさ、規模拡大に伴う管理を課題として挙げ、合併会社による技術資産の把握とグローバルリソースの確保、開発プロセス・組織体制の変革について説明した。

AIで既存システムの理解を取り戻す

LUVINAの一瀬貴裕氏は、AIへの依存と人の思考力を問い、レガシーシステムを理解するためのAI活用を紹介した。COBOLを分割して読ませ、依頼手順を統一し、生成した設計書を元のプログラムと照合する事例を提示。読む作業をAIが支援し、人が確認・判断する分担により、暗黙知の形式知化と品質確保を進める重要性を示した。

共通する論点

既存システムと業務の理解を土台に、AIと人の役割を定め、品質・安全性と事業効果を確かめながら活用を広げることが、各講演の論点となった。

生成AI・AIエージェントの業務活用

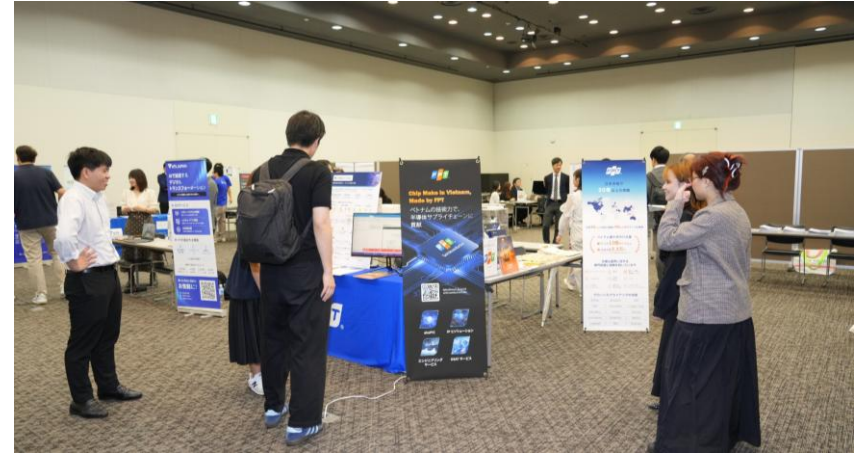
GMO-Z.com RUNSYSTEMのグエン・タン・ミン氏は、AI導入の効果を売上・コストの実数字で測る考え方を紹介した。営業・経理・人事等の業務で、正常系をAI、例外対応を人、重要判断を顧客が担う分担を提示。情報漏洩、権利・利用範囲、効果測定、トークン費用を管理し、1業務の試行から手順の標準化・横展開、全社展開へ段階的に進める方法を説明した。

パネル:AI時代のエンジニアと共創

「ソフトウェアエンジニアからAIエンジニアへ」をテーマに、AI時代に求めるエンジニア像の変化と、人材育成・組織づくりを議論した。JISA川本国際委員会副委員長がモデレーターを務め、一瀬氏らが登壇。日越協業によるソリューション共創の可能性を検討し、技術導入とあわせて人材・役割・業務のあり方を考える機会となった。

展示ブース・Business Matching

ベトナム企業のAI・Deep Techソリューション紹介と個別商談



左:展示エリア全景/右:企業ブースでの意見交換

展示ブース

ベトナム企業10~12社が出展。AI、Deep Tech、ロボティクス、ソフトウェア等のソリューションを紹介。

VIPテックツアー

両国政府関係者およびVIPゲストが展示エリアを視察し、ベトナム企業の技術・サービスを体験。

Business Matching

1対1の商談機会を設け、日越企業間の連携・提携・投資機会につながる接点を創出。

企業展示と商談を組み合わせることで、政策・技術議論を具体的なビジネス連携へ接続した。